

2020年度 授業シラバスの詳細内容

○基本情報			
科目名(英)	地理学概論B (Introduction of Geography B)		
ナンバリングコード	K10704	大分類 / 難易度 科目分野	教職科目 / 基礎レベル
単位数	2	配当学年 / 開講期	2年 / 後期
必修・選択区分	教職関係科目(選択必修): 中学校教諭一種免許状(社会)		
授業コード	K004651	クラス名	-
担当教員名	土居 晴洋		
履修上の注意、履修条件	指定した範囲の教科書を授業前に読み、理解できることと、理解できないことを明確にして下さい。その際に、地図や写真、図表等から何が読み取れるかをよく考えて下さい。授業においては、理解できなかったことを積極的に質問して下さい。授業内容を踏まえて、授業後に復習して下さい。		
教科書	『新詳地理資料COMPLETE2020』帝国書院		
参考文献及び指定図書	適宜紹介する。		
関連科目	地理学概論A, 地誌学		

○授業の目的・概要等							
授業の目的	<p>自然現象や人文社会現象を時間と空間の枠組みの中で理解することが地理学の目的であることを確認し、複雑に変化を遂げる現代社会を地理学的視点から解釈するための理論や方法論を提示します。高校までの学校教育の「地理」の影響で、暗記科目ととらえられがちな「地理」のイメージを払拭し、現代社会を理解するうえで、地理学の見方・考え方が非常に有効であることを理解し、地理学の見方・考え方の基礎を身につけ、身近な地域を自ら観察し、読み解くことができるようになることを目指します。□</p> <p>地理学の基礎の理解については、『地理学概論A』と重複しますが、それ以外は異なる内容としており、併せて受講することで、地理学を全体的に、かつ体系的に理解できるようにします。このことは、本学のディプロマ・ポリシーに謳う「自然や文化・伝統など幅広い視野」を持ち、「時代の変化を捉える」力を養うことに繋がる。</p>						
授業の概要	<p>地理学の概念や構成、見方・考え方を地図の読図技法など、地理学を学ぶうえで不可欠な項目を最初に学びます。本授業では幅広い地理学の領域の中から、自然環境との関わりを持ちつつも、人間社会の歴史や文化、政策などの影響が強い第二次産業、第三次産業に絞って学習を進めます。最初にエネルギーや工業、第三次産業の基礎的理論や地域性について理解します。その後、現代社会の人口に関わる側面として、人口論の基礎的用語や理論を学び、人が暮らす集落や都市の歴史や機能、形態へと話を進めます。これらを通して、現代社会の都市問題などの現状と解決の努力も見ていきたいと思います。</p> <p>なお、教科書は地理学の構成としての系等地理学(人文地理学・自然地理学)と地誌学の内容を網羅的に解説するものです。毎時の授業テーマに沿って、該当する教科書のページを指定します。まとまった範囲のページだけでなく、分散的に指定することもあります。□</p>						
授業の運営方法	<table border="1"> <tr> <td>(1) 授業の形式</td> <td>「講義形式」</td> </tr> <tr> <td>(2) 複数担当の場合の方式</td> <td>「該当しない」</td> </tr> <tr> <td>(3) アクティブ・ラーニング</td> <td>双方向授業</td> </tr> </table>	(1) 授業の形式	「講義形式」	(2) 複数担当の場合の方式	「該当しない」	(3) アクティブ・ラーニング	双方向授業
(1) 授業の形式	「講義形式」						
(2) 複数担当の場合の方式	「該当しない」						
(3) アクティブ・ラーニング	双方向授業						
地域志向科目	カテゴリー III: 地域における課題解決に必要な知識を修得する科目						
実務経験のある教員による授業科目	該当しない。						

○成績評価の指標		○成績評価基準(合計100点)		
到達目標の観点	到達目標	テスト (期末試験・中間確認等)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (発表・その他)
【関心・意欲・態度】	日常的な事象を認識し、地理学的な関心を持つことができる。		5点	5点
【知識・理解】	地理学の概念や地理学の基本的な見方・考え方を習得している。	30点	5点	5点
【技能・表現・コミュニケーション】	基本的な主題図や統計資料の読解と考察を行うことができる。	20点	5点	5点
【思考・判断・創造】	地理学の見方・考え方をを用いて日常的な事象を考察することができる。	10点	5点	5点
○成績評価の補足(具体的な評価方法および期末試験・レポート等の学習成果・課題のフィードバック方法)				
<p>双方向授業を行うために、あらかじめページを指定した教科書の予習が行われていることを前提にします。したがって、授業において教員側から受講学生に対する質問への回答や、逆に学生側から教員側への疑問や質問が出されるか否かも評価の対象とします。</p>				

○その他

2020年度 授業シラバスの詳細内容

○授業計画	科 目 名：地理学概論B (Introduction of Geography B) 担当教員：土居 晴洋	授業コード：K004651
学修内容		
1. 地理学とは何か		
<p>地理学とはどのような学問なのかを理解することを目的とする。「地理」は中学や高校において地理(地理的分野)として学んでおり、その時に地名や産物、地形用語などを暗記する科目というイメージがあったかもしれない。しかし、大学で講ずる「地理学」をそのイメージの延長で捉えることはできない。現代の地理学は、人文社会科学や自然科学などの隣接諸科学と同列のサイエンスの一領域である。しかし、地理学の基本的な枠組み、ものの見方や考え方があることを、具体的な事例を通して理解する。</p>		
予習：高校までで学んだ「地理」の楽しかったところ、苦手だったところを振り返る。		(約2.0h)
復習：高校までの「地理」と大学で学ぶ「地理学」は何が同じで何が違うのかを整理する。		(約2.0h)
2. 地理学の構成		
<p>地理学の研究対象は、日々の暮らしから地域や社会にある産業や文化といった人や社会に関わる事象に加えて、気温や降水などに組合せとしての気候や扇状地や段丘といった地形の特徴などの自然現象や自然災害など、極めて多岐にわたる。また、大分県や中国などの県や国家などの地域が持つ特徴に注目する地誌学も地理学を構成する重要な領域である。地理学が持つこのような対象の多様性を知るとともに、地理学として一つの学問領域を形成している必然性や論理を理解する。</p>		
予習：地理学の見方・考え方によって、自分の身近な地域の特徴を考える。		(約2.0h)
復習：講義内容を踏まえて、人文社会現象・自然現象から一つ選び、その時間的・空間的特徴について考える。		(約2.0h)
3. 地球上の位置・地図の種類		
<p>地理学において考察対象とする様々な事象について学ぶ前に、それらの事象が生起する「地球」をどのように捉えるのか、また地理学ではこれをどう表現するのかを学ぶ。「地球」は球体であり、自転と公転を続けていることが、どのような自然現象や社会的な特質を生み出しているのか、また今現在、我々が暮らしている大分が、その地球の中でどのような位置にあるかを理解する。さらに球体を平面に展開するために工夫を凝らしてきた地図の図法の特徴について理解する。</p>		
予習：教科書8-11ページを読み理解を進める。疑問点を明確にする。		(約2.0h)
復習：講義内容を踏まえて、教科書該当ページを復習する。		(約2.0h)
4. 地形図の読み取り		
<p>地図の概念を理解したうえで、その一つである地形図の読み取り方法を学ぶ。高校までで地理を学ぶ際に、地形図の読み取りが苦手とする生徒は少なくない。その多くは、二次元平面に表現された情報を頭の中で立体的に再構成することに困難を感じることに由来する。本学周辺の地形図を題材にして、等高線と実際に土地の凹凸などの対応関係を確認し、地形的情報を読み取るコツを習得する。また、豊富な地図記号が地域の持つ様々な情報を与えてくれることを知る。</p>		
予習：教科書36-39ページを読み理解を進める。疑問点を明確にする。		(約2.0h)
復習：講義内容を踏まえて、教科書該当ページを復習する。		(約2.0h)
5. 世界のエネルギー資源		
<p>エネルギー資源を抜きに近年の歴史を語ることはできない。世界的な人口増加と経済発展によって、エネルギー資源の消費は加速度的に増加しているにも関わらず、空間的に偏在しているため、それを巡って世界では様々な動きが生まれている。エネルギー資源の中にはレアメタルのような希少資源で、近年になって産業発展における重要性が高まりつつ天然資源もある。また、原子力や再生可能エネルギーなど、現代世界の動向を左右するものもある。これら資源と我々の生活や社会との関連を考えたい。</p>		
予習：教科書130-145ページを読み理解を進める。疑問点を明確にする。		(約2.0h)
復習：講義内容を踏まえて、教科書該当ページを復習する。		(約2.0h)
6. 工業の発達と立地		
<p>産業革命は単に工業の発達を促したことに留まらない影響を人類に与えたが、製造業を中心とする工業の発達は世界的な規模で社会や暮らしのあり方を一変させた。現代の工業製品には様々な種類があり、それぞれ技術革新と国際的な国際的・国内的な地域間連携がその発達の鍵を握っていた。日常的には、手元にある工業製品しか見ていないが、手元に届くまでに多くの工夫の積み重ねがあり、国際的なモノや人、情報の流動の中で作られていることを理解する。</p>		
予習：教科書146-149ページを読み理解を進める。疑問点を明確にする。		(約2.0h)
復習：講義内容を踏まえて、教科書該当ページを復習する。		(約2.0h)
7. 日本の工業		
<p>大分市は県庁所在都市であるが、工業都市と呼んでもよいほどに工業機能が充実しており、本学が位置する大分地区は工業都市である大分市の一角を担っていると言っても過言ではない。工業は原則的には原料産地と消費地との位置関係において立地場所が決定されるが、現実的には地域の歴史や国家等による政策などが影響する。具体的な製造品の製造プロセスや立地決定要因を考察することを通して、日本の各種工業の特色と立地における地域的な差違と共通性を理解する。</p>		
予習：教科書176-180ページを読み理解を進める。疑問点を明確にする。		(約2.0h)
復習：講義内容を踏まえて、教科書該当ページを復習する。		(約2.0h)
8. 第3次産業の発達		
<p>我々の日常生活で購入・利用する財やサービスを提供する第3次産業について考える。特に、20世紀後半から現在にかけて、小売業の変化はめざましい。現在では当たり前となっている小売業のあり方が、いつ・なぜ・どのように変化してきたのか、また小売業を含む物流のあり方の変化が地域に対してどのような影響を与えたのか、さらにグローバル化する現代世界において余暇や観光の現状と課題を理解することは、近い将来の第3次産業を考える基礎となる。</p>		
予習：教科書181-185ページを読み理解を進める。疑問点を明確にする。		(約2.0h)
復習：講義内容を踏まえて、教科書該当ページを復習する。		(約2.0h)
9. 交通の発達と情報化の進展		
<p>前時までの工業や商業、また後時の人口移動や都市のあり方の基礎にあるのが、交通の発達と情報化の進展である。人や物資、情報の空間的流動を担う陸海空の交通や情報通信技術の変化や発展は、21世紀に入ってさらに速度を増しているように感じられる。これらの変化や発展を貫く原理は、大量化・高速化・多様化にある。このような大量化・高速化・多様化がどのように進められ、その結果、地域や社会、世界がどのように変化してきたのかを考える。</p>		
予習：教科書186-191ページを読み理解を進める。疑問点を明確にする。		(約2.0h)
復習：講義内容を踏まえて、教科書該当ページを復習する。		(約2.0h)
10. 世界の人口・人口の移動		
<p>世界の人口は21世紀半ばには100億人に達するとも予想されている。産業革命以降、世界の人口は急速に増加し、現在においては発展途上の国々を中心に依然として増加傾向が著しい。人口に関わるいくつかの基本用語を確認し、このような人口が増加するメカニズムとその発展段階を理解する。また、世界的な人口の分布やその背後にある人口移動、近年注目されている豊かな暮らしを実現するための取り組みを考える。</p>		
予習：教科書196-198ページを読み理解を進める。疑問点を明確にする。		(約2.0h)
復習：講義内容を踏まえて、教科書該当ページを復習する。		(約2.0h)
11. 世界の人口問題		
<p>わが国における少子高齢化はよく知られている。わが国ばかりでなく、先進諸国を中心に普遍的に見られる少子高齢化はなぜ起こるのか、またそこに地域的な差違や共通性はあるのか、また少子高齢化によって、社会はどのような特徴を持つことになるのかを考える。一方で、先進諸国であっても、少子高齢化が当てはまらない国もある。なぜそのような国が見られるのかを考えることは、日本の人口問題を解く鍵を示してくれるかもしれない。</p>		
予習：教科書199-201ページを読み理解を進める。疑問点を明確にする。		(約2.0h)
復習：講義内容を踏まえて、教科書該当ページを復習する。		(約2.0h)
12. 集落の立地・村落の機能		
<p>集落に注目することは、私たちの暮らしが自然環境や地域の歴史や文化と強く繋がっていることを理解させてくれる。現代のように土木技術が発達していなかった時代においては、人は周辺の自然環境を詳細に把握する能力を持っており、より安全で、より豊かな暮らしができる場所を選定していた。その結果、そこに人が集まり、集落が形成された。代表的な集落の立地や形態を学んだうえで、本学が所在する大分地区における集落の特徴を自然環境と歴史の側面から読み解く。</p>		
予習：教科書202-203ページを読み理解を進める。疑問点を明確にする。		(約2.0h)
復習：講義内容を踏まえて、教科書該当ページを復習する。		(約2.0h)
13. 都市の発達と地域構造		
<p>多くの人が都市に暮らす現代社会では、都市とは何かを理解することが重要である。なぜ都市が生み出されたのか、どのような都市があるのか、地域による都市のあり方に違いはあるのかについて考える。また、世界には無数の都市があるが、その空間的配置や階層には規則性が見られる。一つの都市を取り上げると、都心から郊外に向けて広がる地域構造が見られ、そのことが私たちの日常生活を様々な側面で規定していることを理解する。</p>		
予習：教科書204-207ページを読み理解を進める。疑問点を明確にする。		(約2.0h)
復習：講義内容を踏まえて、教科書該当ページを復習する。		(約2.0h)
14. 都市への人口集中・世界の都市問題		
<p>先進国と発展途上国では、都市の人口が増加するメカニズムや背景が異なる。特に植民地支配を受けた国々を中心に、一部の都市のみが成長するといった、都市発展のアンバランスが存在する。また、現代においては、単独の都市ではなく、都市が連続・接続し、一体として巨大な都市地域を形成することも珍しくない。このように様々な特質を持つ都市について、現在社会はどのような課題や問題を抱えているのか、またその解決に向けてどのような取り組みが見られるのかを理解する。</p>		
予習：教科書208-211ページを読み理解を進める。疑問点を明確にする。		(約2.0h)
復習：講義内容を踏まえて、教科書該当ページを復習する。		(約2.0h)
15. 日本の都市発展と居住問題		
<p>わが国の都市発展の歴史と地域的な特質を概観する。都市は人口が集積することで発生するが、その集積した人口が居住するためには、住宅や上下水道などが欠かさない。そのようなインフラストラクチャーや様々な都市施設の整備は、民間部門ばかりでなく、国や地方政府による政策が後押ししている。都心部の衰退など、わが国ではその時々に取り組みられた都市の課題に対して、どのような政策によってその解決に取り組んできたのかを跡づけたい。</p>		
予習：教科書213ページを読み理解を進める。疑問点を明確にする。		(約2.0h)
復習：講義内容を踏まえて、教科書該当ページを復習する。		(約2.0h)
16. 期末試験		
期末試験		
予習：教科書および授業内容をしっかり復習する。		(約2.0h)
復習：		(約2.0h)